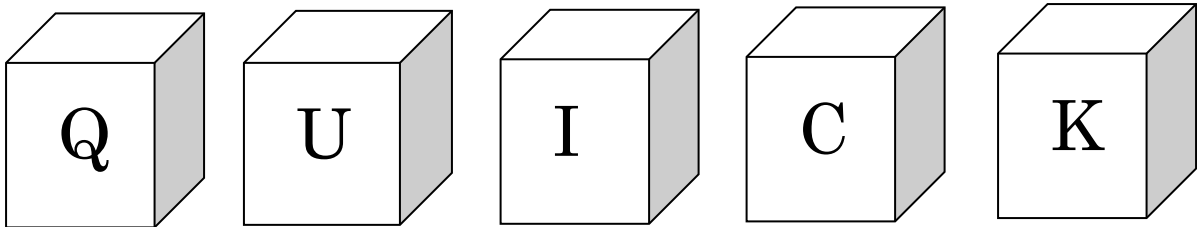


Quick Check

▶ Grammer & Usage



>>Visual Studio Code 入門 ～

例題を解きながら基本操作を覚えよう

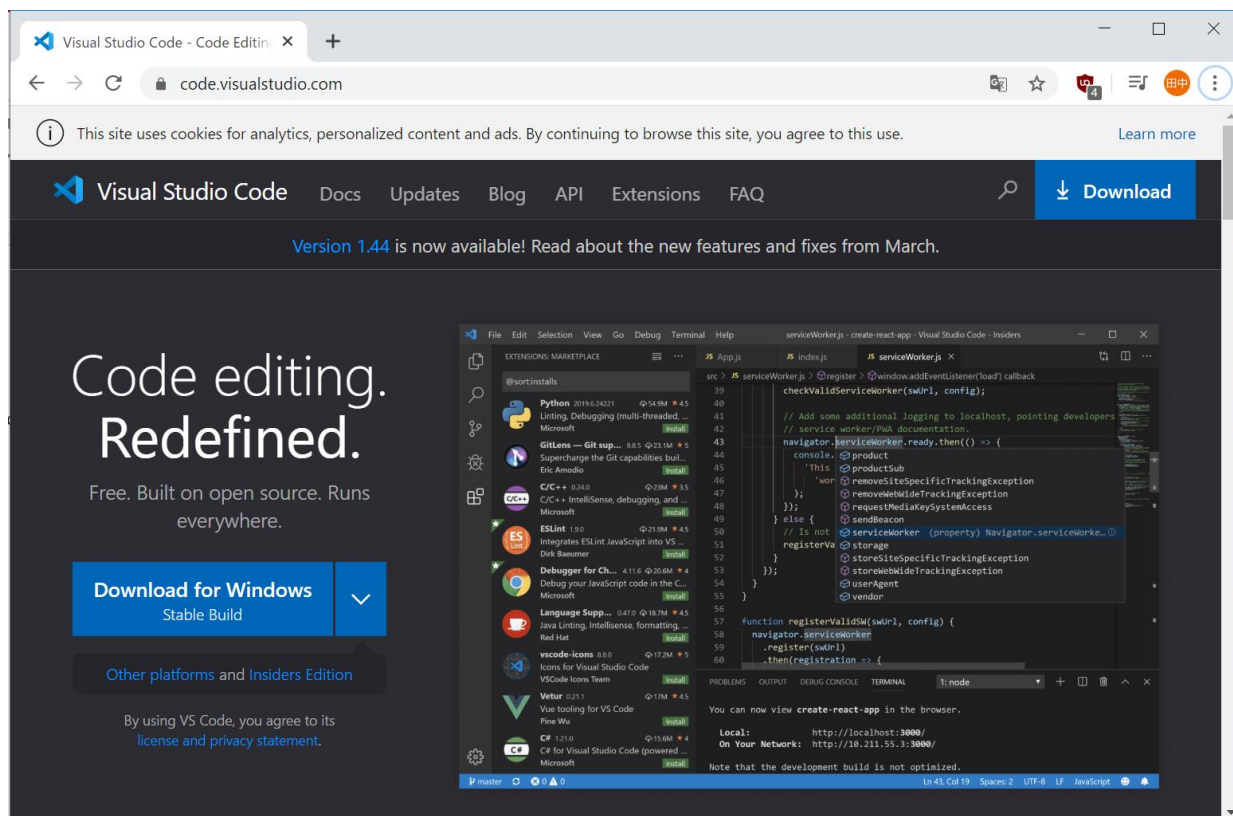
純粋なテキストエディタとしての機能はもちろん、サイドバーにソースがフォルダ階層として表示されたり、複数のタブで開けたりと操作性の高い UI で使いやすいプログラミングに特化したエディタとして人気のある Visual Studio Code。プログラミング言語ごとの開発支援機能を、拡張機能としてマーケットプレイスから簡単にインストールできるため、使用用途也多岐に渡っています。

今回は、Visual Studio Code の基本的な操作を確認していきたいと思います。

○ Visual Studio Code のインストール

公式サイトからダウンロードします。

<https://code.visualstudio.com/>

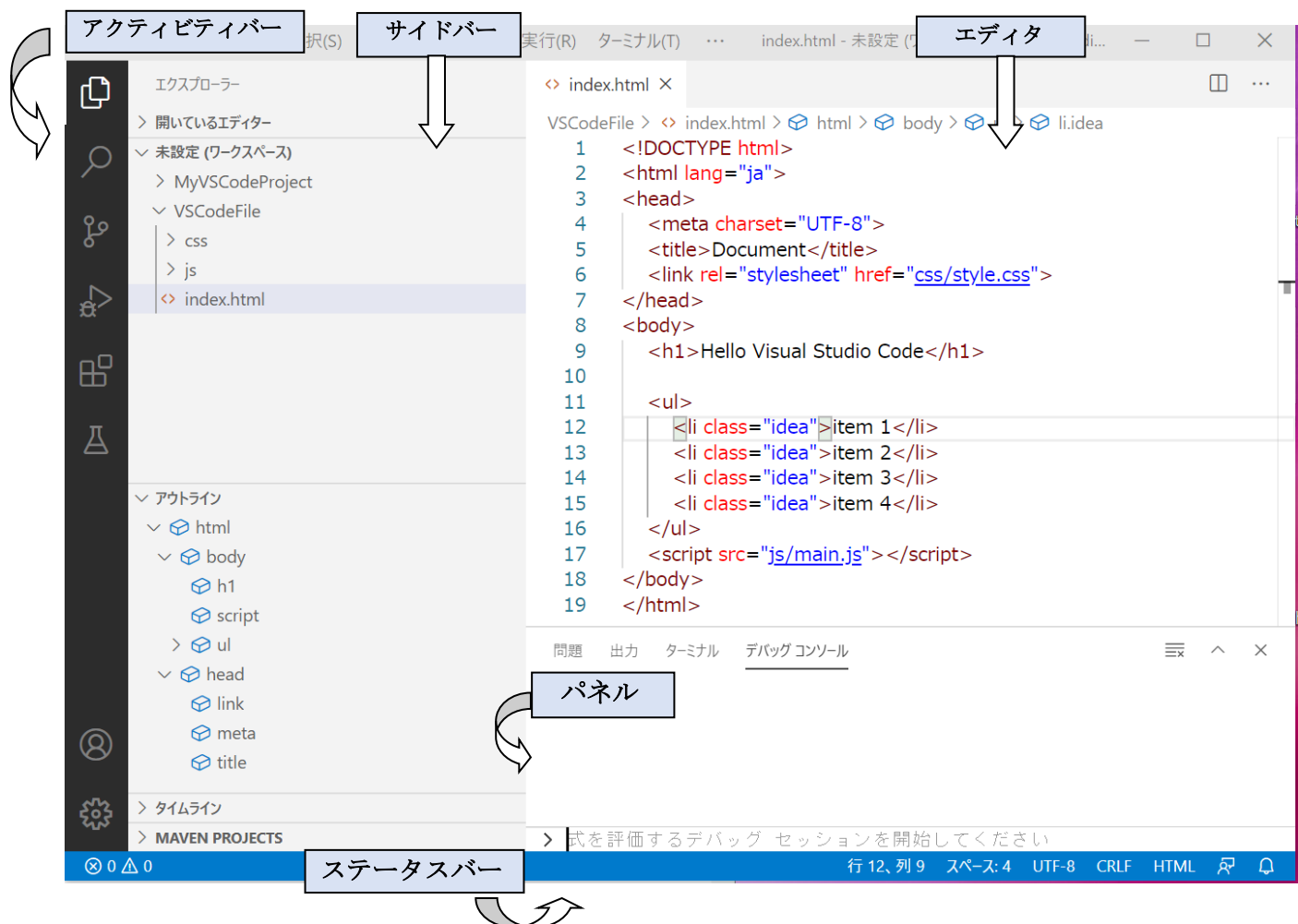


* Windows の場合、インストール時に「Add to Path」にチェックを入れ、code コマンドをインストールしておくのがお勧めです。

日本語化については、下記の拡張機能ビューから「Japanese」と検索してインストールします。
インストール後、再起動をしてください。



画面構成



基本用語

用語	説明
アクティビティバー	<p>サイドバーに表示する機能を切り替えるアイコン群。</p> <ul style="list-style-type: none">・「エクスプローラビュー」： フォルダのファイルツリー表示・「検索ビュー」： ワークスペース内のファイルを対象に検索・「ソースコントロールビュー」： コミット状況がわかるファイルの一覧表示・「デバッグビュー」： デバッグ関連機能・「拡張機能ビュー」： 拡張機能の検索、インストールなど管理等
エディタ	<p>編集の基本となるエリア。タブなどを含むテキストエディタの部分であり、ファイルの編集はこの中で行う</p> <ul style="list-style-type: none">・ 画面の分割 マウスでタブをドラッグすることで、タブの順番を変更するだけでなく、1つの画面を複数のエディタに分割して好きなレイアウトを表示可能
サイドバー	<p>ファイルツリーやデバッグ時の変数などを表示するエリア。エディタで開いているファイルとその内容は連動する</p>
パネル	<p>リントエラーやコンソールログを表示するエリア。一部の内容はエディタで開いているファイルと連動する</p>
ステータスバー	<p>エディタで開いているファイルの情報などを端的に表示するエリア。</p>
コマンドパレット	<p>入力したいコマンドを検索して選択することで、Visual Studio Code の操作が可能</p>
コード補完 (インテリセンス)	<p>「入力したいであろう文字列の候補」を表示する</p> <p>初期設定では入力と同時にコード補完候補が表示されるが、Ctrl+Space を押して手動で表示することも可能。矢印キーで候補を選択し、Tab、もしくは Enter キーを押すと、その候補が確定される</p>

基本機能で効率的に作業する ― ショートカットキー

様々なキーボードショートカットキーが設定されており、ショートカットキーを使用することによって、作業の効率を上げることが可能となります。下記は **Visual Studio Code** で作業をする上で使用頻度が高いショートカットキーですので、この機会に覚えておくといよいと思います。

No	ショートカットキー	説明
1	Ctrl + C	選択行をコピーする（非選択状態）
2	Ctrl + X	選択範囲を切り取る（非選択状態）
3	Ctrl + H	ファイル内の置換をする
4	Ctrl + P	ファイル名によるクイック検索を開く
5	Ctrl + F	ファイル内の検索をする
6	F3 / Shift + F3	次／前の検索結果に移動する
7	Ctrl + Shift + F	フォルダ／ワークスペース全体を検索する
8	Ctrl + G	指定した行に移動する
9	Ctrl + L	（繰り返し押して）次の行を選択範囲に追加する
10	Alt + 左クリック	クイックした箇所にマルチカーソルを追加する
11	Alt+Shift+左ドラッグ	矩形に選択する
12	F1	コマンドパレットを表示する
13	Ctrl + B	サイドバーの表示／非表示を切り替える
14	Ctrl + J	パネルの表示／非表示を切り替える

今回は問題を解きながら、Visual Studio Code の基本操作を確認していきます。

問題 1 : Emmet 記法／マルチカーソル機能を使って HTML を記述

下記の HTML コードを作成してみましょう。

Emmet 記法を使うことで、HTML や CSS を省略記法で簡潔に記述し、ショートカットでコードの展開することが可能です。また繰り返し記載する要素については、マルチカーソル機能を使うと便利です。

```
<!DOCTYPE html>
<html lang="ja">
<head>
  <meta charset="UTF-8">
  <title>Document</title>
  <link rel="stylesheet" href="css/style.css">
</head>
<body>
  <h1>Hello Visual Studio Code</h1>
  <ul>
    <li class="idea">item 1</li>
    <li class="idea">item 2</li>
    <li class="idea">item 3</li>
    <li class="idea">item 4</li>
  </ul>
  <script src="js/main.js"></script>
</body>
</html>
```

Note :

- ・ テンプレート作成と CSS、JavaScript の読み込み

- ・ 「! + return」 ⇒ HTML のテンプレート表示
- ・ 「link:css と入力して return」 ⇒ <link rel="stylesheet" href="styles.css"> が挿入
- ・ 「script:src と入力して return」 ⇒ <script src=""></script> が挿入

- ・要素に ID を付ける

展開前 : li#idea
展開後 : <li id="idea">

- ・要素にクラスを付ける

展開前 : li.idea
展開後 : <li class="idea">

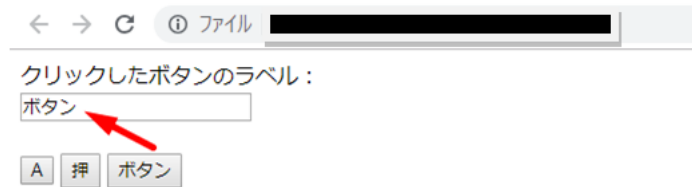
- ・同じ要素を繰り返す : 「*」 に続けて数字を入力

展開前 : div*3
展開後 : <div></div>
 <div></div>
 <div></div>

- ・繰り返す要素でネストする

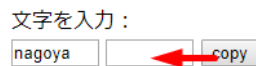
展開前 : ul>li*2
展開後 :

問題 2 : クリックしたボタンのラベルを得る



「はじめに知っておきたい JavaScript 基礎編.pdf」にあるソースを参考に JavaScript を外部読み込みして実装してください。

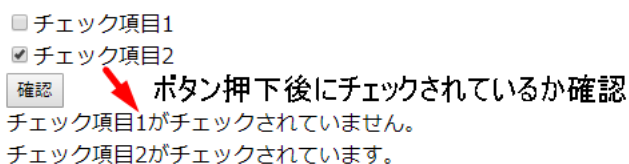
問題 3 : ボタンクリックでテキストフィールド間の内容をコピーするには



ボタン押下で左のテキストボックスの値が
右のテキストボックスにコピーされる

「はじめに知っておきたい JavaScript 基礎編.pdf」にあるソースを参考に JavaScript を外部読み込みして実装してください。

問題 4 : チェックボックスの値取得



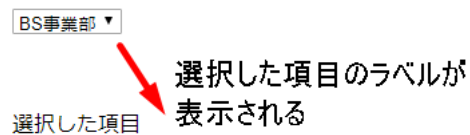
「はじめに知っておきたい JavaScript 基礎編.pdf」にあるソースを参考に JavaScript を外部読み込みして実装してください。

問題 5 : ラジオボタンの値取得



「はじめに知っておきたい JavaScript 基礎編.pdf」にあるソースを参考に JavaScript を外部読み込みして実装してください。

問題 6 : セレクトボックスの値取得



「はじめに知っておきたい JavaScript 基礎編.pdf」にあるソースを参考に JavaScript を外部読み込みして実装してください。

Visual Studio Code はプログラミングに特化したエディタとして大変便利で人気があります。今まで使ったことがなかった方は、この機会に Visual Studio Code を使ってみてはいかがでしょうか。

以上となります。

参考文献 :

- ・ 森下篤『Visual Studio Code 実践ガイド』技術評論社（2020 年）